
<特集> マラリア排除

詳細はこちら：<https://www.malarienomore.jp/wp-content/uploads/2019/01/マラリア排除.pdf>

WHO がウズベキスタンをマラリア排除国として認定

「マラリア排除に成功したと思っても、気を緩めずに、対策を続けなければならない」。ウズベキスタンはこの教訓を 50 年以上前に身にしみて実感しました。中央アジアにある人口 3200 万人のこの国では、1943 年にはマラリアが流行していて人口の 10 人に 1 人が感染していました。第二次世界大戦後政府がマラリア排除に注力し、1961 年に初めてマラリアを排除しましたが、長くは続きませんでした。その後深刻な再流行が起り、2 回目に排除できたのは 2010 年でした。そして 2018 年 12 月 7 日ようやく、WHO の正式な認証を受けることができました。ヨーロッパでこの認定を受けるのはウズベキスタンが 19 か国目です。

WHO によるマラリア排除認定

マラリア排除認定とは、その国にマラリアが無いということを WHO が正式に認証することです。国が現地での人間のマラリア伝播を全国で少なくとも連続 3 年間断ち切ったことを合理的な疑いを越えて証明し、現地での伝播の再発を予防できるような完全に機能しているサーベイランス及び対応システムが構築されている場合に WHO はこの認定を行います。

WHO によるマラリア排除認定を受けた国々

1955 年から 2018 年の間に WHO の認定を受けた国々のリストです (2018 年 11 月 19 日現在)。

マラリア再流行の脅威

マラリアは効果的な介入を行うことにより、大幅に減らすことができます。しかし、せっかくマラリア対策が成功しても介入を続けないと、その状態を維持できずに再びマラリアが大流行する、という歴史が世界で繰り返されてきました。1930 年代から 2000 年代の間に 61 か国で起こった 75 件の再流行に関する研究の結果、ほとんどの再流行 (98%) はマラリア対策の弱化的影響を受けていることがわかりました。中でも資金の欠如が再流行の原因として最もよく見られ (57%)、殺虫剤・医薬品への耐性によるものは 32% でした。皮肉な

ことに、マラリア対策が成功すればするほどマラリアの問題が忘れ去られ、資金配分が無くなり、活動が疎かになり、その結果より深刻な再流行が起こる可能性があります。そのような結果を引き起こさないために、長期的な視野にたった資金・活動計画へのコミットメントが必要です。

★=====★

発信元： 認定 NPO 法人 マラリア・ノーモア・ジャパン (MNMJ)

Copyright(C) Malaria No More Japan

〒102-0083 東京都千代田区麴町 3-7-4 秩父屋ビル 8F

Tel: 03-3230-2553 Fax: 03-5275-2020

Web URL: <https://www.malarianomore.jp/>

Facebook: Malaria No More Japan

★=====★

過去のメルマガは [こちら](#)

本メールマガジンは、メールマガジンに登録された方及び名刺を交換した方々などにお送りしています。万が一重複している場合や配信停止をご希望される場合は下記までご連絡ください。

advocacy@malarianomore.jp